

○古賀氏の披露宴

区内字四古賀辰

四郎氏が明治十二年本縣に奉住したるより千辛萬苦を嘗めて海産物の開拓に尽瘁し兼ねて縣内古來の商業思想に一新機轉を與たへた。程の事蹟に就ては今更喋るするまでもなきことなるが氏が堅忍不拔の心を以て多年間絶海無人の嶋嶼たる尖閣列嶋を経營して今は右利のもとなし、諸種の海産を興し山林の開拓を試み遂に四百餘名の移住民の基礎を定め將來益々發展の見込あるに就ては取も直さず國益増進、功わりと云ふの外なし右に就ては縣當局者よりも其の筋に稟請の次第もありたるが中央當局に於ても篤と調査を重ねたる上古賀氏の姓行及び事業認識するに至りて此の程藍綬褒章を賜へること過日の本紙報道する如くなるが古賀氏は之を以て一身の名譽とするのみならず大方の各位の庇護に基くものなりとなし右

名譽の披露を兼ねて一場の挨拶をなすべく明二十九日午四時より風月樓に於て交友及び知名紳士の招宴を開くと云ふ事業家として國家の旌表を受くべきもの我國に於ては藍綬章の外に何ものもなし面して其の貴きことは佛のレジオンドノールにも優ることも劣ることではあるべからず去れば如斯き旌表に與かる事業上の功績を著し得たるは勞々我が縣下の一面目なりと云ふべしと也

12/28 91